

平成27年度通常総会記念講演会次第

日 時 平成27年5月19日(火)
午後2時00分
場 所 ホテルグリーンパーク津
6階「伊勢の間」

- 1 主催者挨拶
- 2 来賓挨拶
- 3 来賓紹介
- 4 祝電披露
- 5 講演

14:10～

「伊勢湾の再生に向けた次世代への継承」

講師 三重大学教授 朴 恵淑 様

- 6 パネルディスカッション
- 15:00～

「伊勢湾の再生に向けた森・川・海の連携」

パネラー (森) 速水 亨 様 (速水林業代表)

(川) 畑井 育男 様
(新雲出川物語推進委員会委員長)

(海) 小西 伴尚 様
(三重高校教諭・博士(学術))

コーディネーター 三重大学教授 朴 恵淑 様

伊勢湾の再生に向けた次世代への継承 森・里・川・海の連携と持続可能な開発のための教育(ESD)



1. 伊勢湾再生; 四日市公害から学ぶ「四日市学」
2. 森・里・川・海の連携; 流域圏
3. 持続可能な開発のための教育(ESD)に関する
ユネスコ世界会議「ESD in 三重 2014」

朴 恵淑(三重大学人文学部・地域イノベーション学研究科教授)

This document should be cited as: The Bioregional ESD Practice, 100 Regions of E. Inlets and Coast Practices in The Ise Mikawa Bay Watershed, A Report of the Mikawa Bay Watershed ESD Strategic Series.

Published by:
RCE Cluster (Eurasia Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development)
Chubu University, Research Center
1-200 Matsunosatocho, Kasugahara, Aichi, Japan

Editing and Coordination:
Risa Furukawa
Jyunko Kageura
Kana Kanata

Reporting:
Katsuro Ishiyama
Masayuki Aonuma
Shinobu Sakakibara
Chika Ito
Hiroaki Sano
Hatsue Takamoto
Misaki Kunitomo
Kazuo Hatanaka

Translation:
Kenji Hayakawa
SRCE Clubs

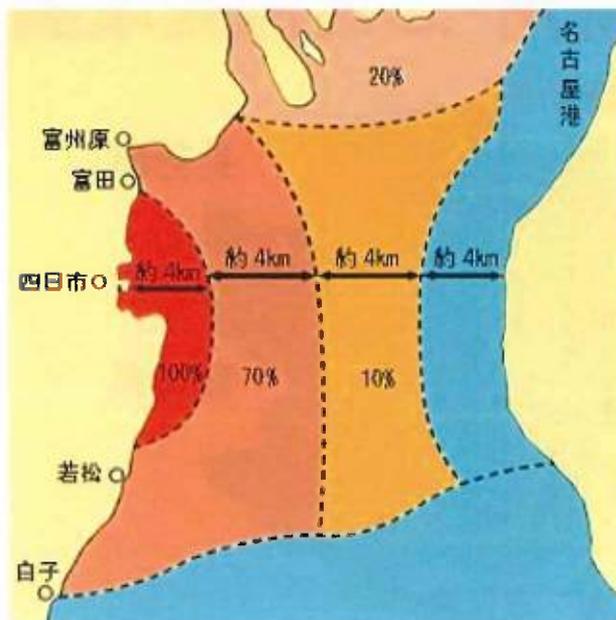
伊勢湾・三河湾流域圏



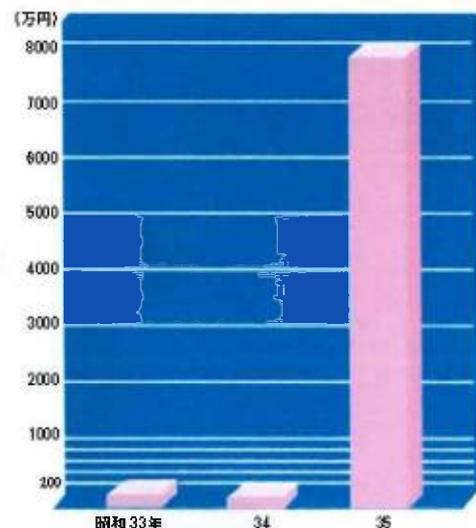
四日市公害の過去・現在・未来



伊勢湾北部における異臭魚の分布状況



異臭魚による年別被害額

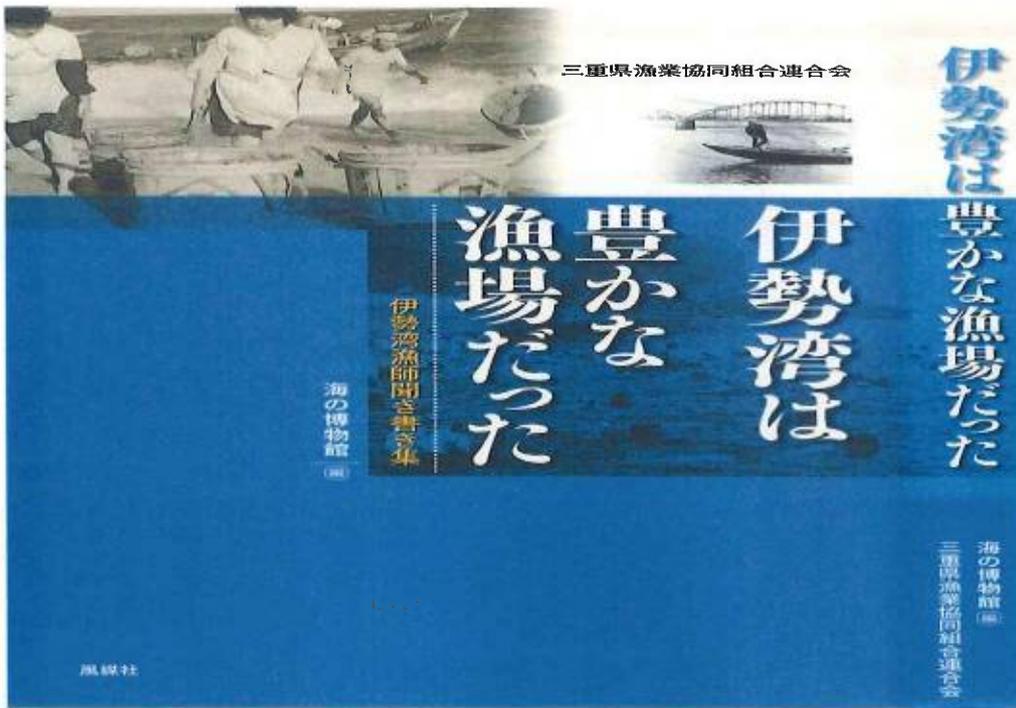


セイゴ (みぎれ魚)



1972-6-3 190g
 鈴鹿市立中央図書館
 資料室蔵

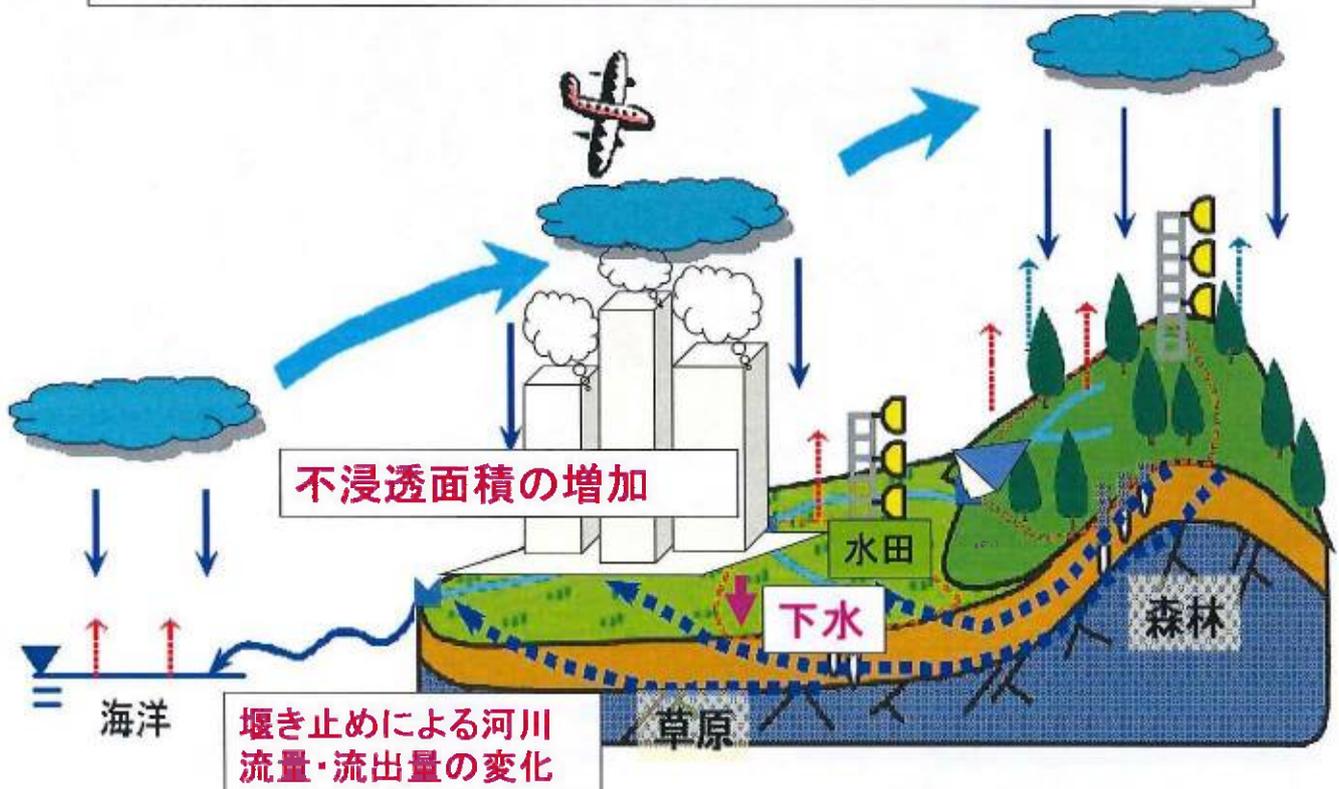
伊勢湾北部は優れた漁場として知られていたが、昭和33年頃から石油臭いという悪評が立ち始めた。第1コンビナートが本格稼働しはじめた後の35年頃には、異臭魚のとれる範囲が四日市の沖合4キロまで達するようになり、東京築地の卸売市場で「厳重な検査が必要」との通告を受け、返品や買ったときによって漁獲高・量ともに大きな被害を被った。これが四日市公害の始まりとなった。



自然は誰のものか？

流域の大気一水循環

地表面の被覆形態の変化 = 重大な環境変化



「四日市公害と環境未来館」

- (1) 市民・企業・行政との三位一体の連携による資料館
- (2) 四日市公害の教訓から学び、環境と経済の好循環の持続可能な社会、世界一の環境都市四日市を創るツールとなる資料館
- (3) 国際環境協力のプラットフォームとなる常に成長する資料館



「世界一環境先進大学」三重大学の力を世界へ

三重から世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す
～人と自然の調和・共生の中で～



伊勢湾



四日市公害から学ぶ「四日市学」

四日市公害訴訟判決(1972.7.24)

- ・企業の共同責任、共同不法行為の認定
- ・大気汚染と喘息などの非特異的閉塞性肺疾患の「疫学的因果関係論」の認定

環境政策(総量規制)・最先端の環境技術

- ・公害防止条例の改正(1971年)
- ・全国初の総量規制公布(1972年)
- ・環境技術
- ・四日市イニシアチブ

* 四日市公害と環境未来館

- (1) 法制度の整備
- (2) 環境政策
- (3) 環境技術
- (4) 企業の環境倫理・社会的責任(CSR)
- (5) 環境ビジネス
- (6) 地域住民の連携・参画
 - ・市民ガバナンス
 - ・持続可能な社会構築
 - ・産学官民の協働型地域づくり
- (7) 人財養成
 - ・持続発展教育 (ESD)
 - ・実践的環境教育のツール(四日市学)
 → 三重大学共通教育 (2004～現在)
約2,000名が受講(毎年新入生の1/5)
- (8) 認識共同体の構築
 - ・各セクターとのネットワーク
 - ・国際環境協力 (アジア)

「四日市学」の意義

四日市学の目的

(2001年4月～)四日市公害を負の遺産から正の遺産としてとらえなおし、自治体を含む地域・住民と協働できる認識共同体を形成し、未来の環境快適都市づくりへ寄与する。

4つのアプローチ

人間学 命の尊厳

- ★公害問題の原点は何か?
- ★公害被害者の生存権を守る手段
- ★環境破壊がもたらした人間の価値判断の喪失

未来学 持続可能な社会システム

- ★公害都市から未来への環境快適都市への再生について

環境教育学 問題解決型・体験型教育

- ★公害を体験していない学生に四日市公害の過去・現在・未来の環境快適都市をめざす人材育成

アジア学 国際環境協力

- ★東アジアや東南アジアの国際環境協力のあり方を探る

2004年4月～「四日市公害から学ぶ四日市学」
(三重大学 共通教育)

人間と自然との関係とは何かという人間としての根本的な命題を考える。



川 RIVERS

河川環境の保全・再生に向けて、調査活動・環境整備、水辺生態系の保全活動や普及啓発、持続可能な川漁などの取組が行われています。河川の環境整備や水辺生態系の保全活動では、森から海までのつながりや流域全体を視野に入れた取組も行われています。

Various approaches have been taken to conserve and restore river environments, such as river surveys, river area management, conservation of freshwater ecosystems, education on river environments and the establishment of sustainable fisheries. Some of these activities aim for restoration of the cycle between forests and the sea, and conservation of regional biodiversity as a whole.



河川に関する調査
River surveys and observations
Surveys on freshwater ecosystems are currently underway in the region.



魚の保護活動
Conservation of fish
Conservation activities for "Horieko" (Common carp subspecies) numbers of this freshwater fish in spring-fed ponds and rivers are increasing in the region.



河川の環境整備
River environment improvement
Citizens, private companies and local governments are working together for river cleanup efforts.



伝統的漁法の継承
Inheritance of traditional fishing
Traditional fisheries such as the "Field Age River" tends to catch *Plecoglossus altivelis* which move downstream in spawns, are preserved in the region.



川に関する普及啓発
Education on the value and benefits of rivers
Various river-related activities are being held. Through observation given us the opportunity to understand the multi-functionality of rivers.

「流域圏ESD講座」の実施状況

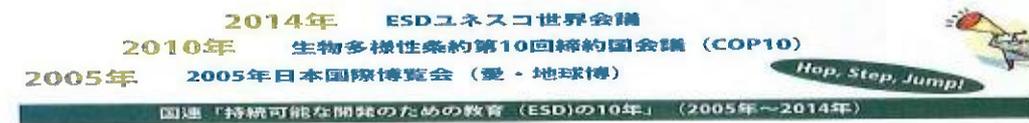
中部ESD拠点協議会は、2014年度には下記の「ESD講座」の実施および支援を行いました。講座開講に際しては、中部ESD拠点運営委員会や各流域圏を熟知する流域圏のコーディネーターなどの助言を受け、活動主体とのコンタクトを取りました。環境問題だけでなく、伝統知・伝統文化や多文化共生などの社会的な課題や、貧困などの経済問題まで、広く持続可能性を脅かす課題に取り組む主体との連携を行いました。

下記の一覧表は、実施講座を示したものです。なお、色分けは環境・社会・経済の分類ですが、いずれも「人口」としての3分類であり、それぞれのテーマの中で3つの視点を考えることが大切です。また、いくつかの講座開催地は厳密には下記表示流域圏から若干ずれる場合があることをご了承ください。

流域圏ESD講座テーマ(2014年度実施)

宮川	柿田川	雲出川	鈴鹿川	海蔵川	揖斐川	長良川	木宮川	庄内川	愛知用水	矢作川	豊川
環境問題 環境教育	和歌山県産米 環境教育	アヒル 環境教育	鳥山守り活動 環境教育	共同生活 環境教育	川筋生活 環境教育	川筋生活 環境教育	水質の調査 環境教育	農業をレク 環境教育	農用水の調査 環境教育	農用水の調査 環境教育	川の調査 環境教育
子育て支援 環境教育	環境教育 環境教育	川の調査 環境教育	川の調査 環境教育	川の調査 環境教育	川の調査 環境教育	川の調査 環境教育	川の調査 環境教育	川の調査 環境教育	川の調査 環境教育	川の調査 環境教育	川の調査 環境教育
環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育
環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育
環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育	環境教育 環境教育

中部ESD拠点の「流域圏ESDモデル」が完成
2014年11月、愛知県では、2005年の愛・地球博、2010年の生物多様性条約締結国会議COP10に続いて、この10年間で3つ目の持続可能性に関する国際会議、「ESDユネスコ世界会議」が開催されました。流域圏を単位としたESDの取組みである本プロジェクトの成果を踏まえ、中部ESD拠点は、「流域圏ESDモデル」を構築し、世界会議で国際的な提案を行いました。詳細は、本報告書後半の世界会議活動報告をご覧ください。



取り戻そう、森・里・川・海のつながり To restore a sustainable natural cycle linking forests, satoyama, rivers and the sea

伊勢・三河湾流域では森・里・川・海において、すでに多様な主体により様々な取組が行われています。森・里・川・海の活動主体がお互いに交流することにより人のネットワークを構築し、森・里・川・海のつながりを確保しながら流域全体の生物多様性の保全を目指します。

Various sectors, such as national and local governments, citizen groups and nongovernmental organizations, private companies, and research organizations have been working for biodiversity in forests, satoyama, rivers and the sea in the Mikawa Bay Watershed. We aim to build a human network by interacting with those sectors and to conserve biodiversity as a whole in the region through restoration of sustainable natural cycles.

上郷・治田地域の生物調査
Biodiversity survey in the Uehara and Tadahara area
鳥類や昆虫などの、里で生活する野生生物を調査する活動が定期的に実施されています。Surveys on individuals such as heron, ibis and migratory birds are continuously being performed. One example of this is the "Hill of Koshirashibashi," a survey and evaluation of meadow ecosystem health.

希少種の陸地活動
Conservation efforts and research related to rare species are being conducted. Surveys are underway on the nesting habits and habits of species of *Exocoetidae*, and there are conservation activities dedicated to them.

漁村地域の活性化
Revitalization of fishing villages
漁業資源の保全・創出やエコツアー等を通じて、漁村地域の活性化が図られています。Regional revitalization projects in fishing villages are underway in the form of utilization of natural resources and ecosystems.

海
THE SEA

かつての豊かな伊勢・三河湾の環境を取り戻すため、干潟や海の調査活動、普及啓発、漁業の活性化に向けた取組などが行われています。活動を通して、干潟や身近な海の環境について、学び考え行動する輪が広がっています。

Various approaches have been taken to restore the healthy and productive environment in the region, such as natural environmental research, education on the sea environment and revitalization of the fishery industry. These activities help us to learn the value and benefits of the sea, and to act for conservation of marine environments.

町屋海岸プロジェクト ～素足で走れる町屋海岸～

三重大学環境ISO学生委員会では、民間企業(産)・国・地方自治体(官)・教育・研究機関(学)・地域住民(民)の産官学民と協力して“素足で走れる町屋海岸”を目指す「町屋海岸モデル」の構築および運用を目標に、町屋海岸で活動を行っています。



町屋海岸を軸としたUSR —町屋海岸モデル—

町屋海岸清掃活動

清掃活動風景の様子 ゴミ分別の様子

年	ゴミ量 (kg)	参加人数
2017	~500	~10
2018	~450	~15
2019	~400	~20
2020	~350	~25
2021	~300	~30
2022	~250	~35
2023	~200	~40
2024	~150	~45
2025	~100	~50

町屋海岸清掃で集めたゴミの量と参加人数の推移(平成26年10月現在)

本学に隣接する町屋海岸は不法投棄問題を抱えています。そこで、当委員会では地域住民によって結成されたNPO法人町屋百人衆の方々と平成18年度から年5回、ゴミ拾いなどの海岸美化活動を行っています。

平成24・25年度には、トヨタ自動車株式会社が“水をテーマにした自然環境を保護・保全する地域社会貢献活動”を支援する取り組み『AQUA SOCIAL FES!!』の一環としても行われました。

植生観察会

第42回町屋海岸清掃における植生観察会

三重県の準絶滅危惧種「ヤマトバタ」&「ハマナガ」

海岸清掃後は、当委員会が中心となり、町屋海岸の植生観察会を行いました。海浜植物の特性を紹介したり希少植物の観察を行うことで、参加者とともに海岸の生物多様性について考えました。

松名瀬生物多様性調査



「ESD in 三重 2014」

(1)文部科学省「ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)」採択(平成26年度～28年度)

(2)参加者:19カ国 210名(小・中・高・大学)

中国 27名、韓国 25名、ドイツ 7名、ベトナム 5名、タイ 2名、
・バングラデシュ 2名、スウェーデン 2名、インドネシア 1名、
インド 1名、トルコ 1名、ウガンダ 1名、ロシア 1名、
ハンガリー 1名、フランス 1名、スペイン 1名、デンマーク 1名、
アメリカ 1名、ブラジル 1名、日本 129名

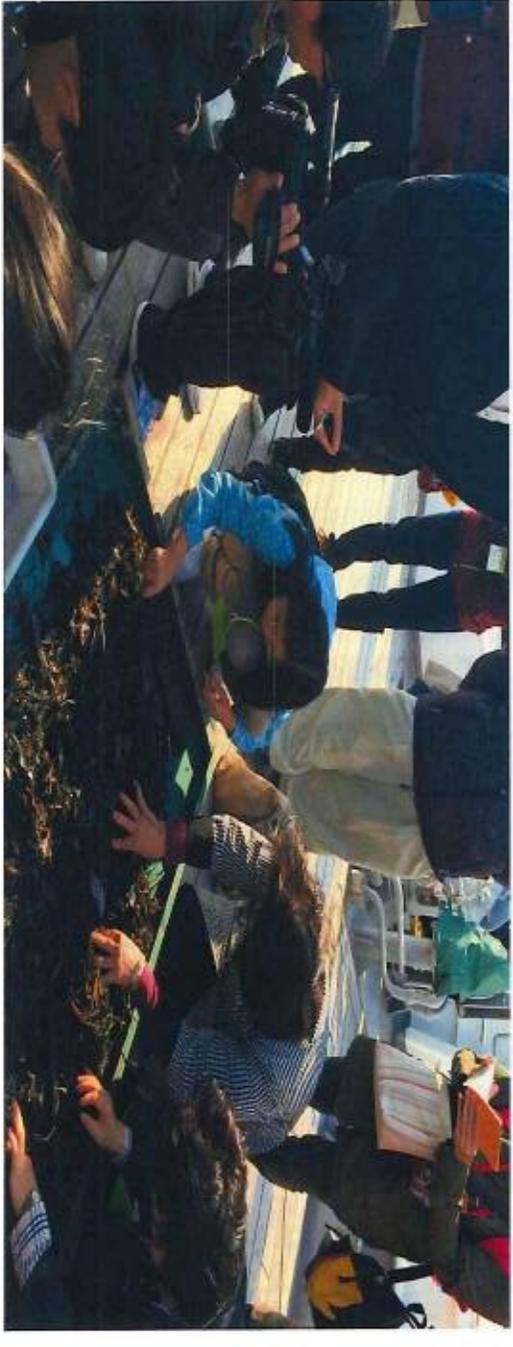
(3)「ESD in 三重2014」

- ・三重県の環境問題の過去・現在・未来を考える
→ 四日市公害から学ぶ「四日市学」
- ・三重県の多様な環境・文化に気づく
→ 流域圏／林業／海女文化／松名瀬干潟
- ・三重から世界へ誇れる環境人材・グローバル人材を育つ
→ 持続可能な開発のための教育(ESD)
- ・アジア・太平洋・世界のユースESDネットワークを創る
→ 情報発信

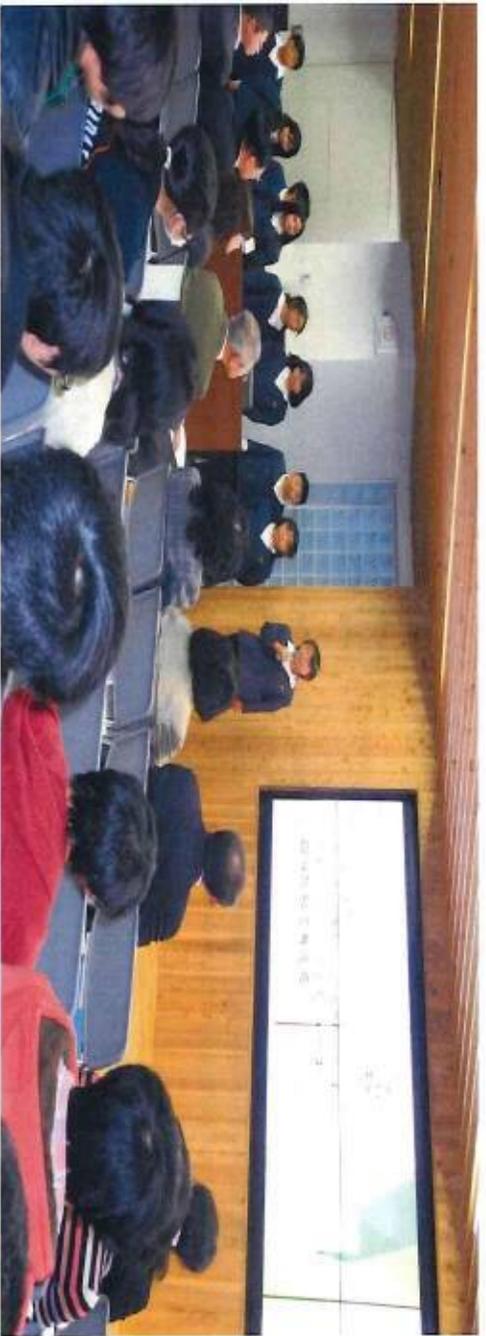
勢水丸

- ・総トン数 318トン
- ・長さ(全長) 50.90m
- ・幅(型) 8.60m
- ・航海速力 12ノット









アジア・太平洋持続可能な開発のための教育 (ESD) ユース宣言

この度ESD in 三重2014に参加した私たち、アジア・太平洋地域のユースは、伊勢湾洋上国際環境学習など、環境及び文化に触れる様々なプログラムを体験しました。この貴重な体験を生かし、持続可能な社会をつくるためにこの宣言文を作成しました。

現在、気候変動や生物多様性の減少、環境悪化に伴う社会的・経済的な不公平のような、国境を越えた問題が起きています。これらの問題は将来になって、本人や周りに大きな影響を及ぼすことに違いありません。従って、私たちは、地球上のすべての命が調和する持続可能な世界を創るために、次のように宣言します。

- 危険や安全に対する意識を高め、日ごろから身の回りのリスクを回避するために備えます。
 - ◎私たちは災害を自分にも起こりうるものとして捉え、危険について自発的に考えて、今日、明日、そして未来のために、知識を伝えていきます。
 - ◎一人ひとりが各地域の特徴を把握して、災害に関する課題を見出し、それに対応できる力を養います。
- 今ある生態系を保護し、資源の有効活用のための活動を展開します。
 - ◎私たちはエネルギーを大切に、木を植え、環境に配慮した乗り物を使うことで二酸化炭素の排出を減らします。
 - ◎あらゆる生物が共存していくために、再生可能エネルギーの重要性を広めていきます。
- 豊かな自然環境を次世代に残していくために努めます。
 - ◎自然のバランスを保つために正しい知識を身につけ、次世代にも継承していきます。
 - ◎環境保全活動に積極的に取り組み、世代を問わず、すべての人々への環境教育に力を注ぎます。
- 生活と環境の調和を保つために努めます。
 - ◎環境問題を私たち自身の課題としてとらえ、遺産、文化、自然から得た知識を用いて、ともに行動します。
 - ◎持続可能な社会づくりに必要な習慣をつけるために、伝統文化を保全、継承する意識を高め、実行します。
- 国際的な視点を持ち、アジア・太平洋ユースネットワークを強固にし、問題解決に協力します。
 - ◎私たちは互いの言葉に耳を傾け、違いを理解、尊重し合い、行動に移します。
 - ◎自国の習慣による固定観念にとらわれず、さまざまな視点からものごとを考え、それを発信していきます。



私たちは、持続可能な社会づくりに向けに必要なことを考え、学び、平等で豊かな世界を目指します。自然と人間が調和し、命あふれる地球を未来に引き継ぐことを実現するために努めます。そのために、現代社会における問題に注意を向け、積極的に知識を習得し、解決に挑みます。この使命を果たすために、ともに努力を惜しまないことを、ここに宣言します。

2014年11月10日

流域圏ESD→ものづくり／ひとづくり／みらいづくり

「流域圏ESD講座」の概要

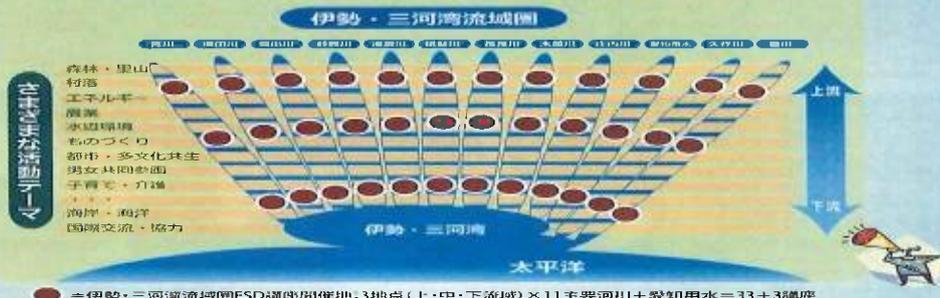
伊勢・三河湾流域圏ESD講座は、国連「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」(2005年～2014年)の提唱に応じ、東海・中部地域で持続可能な発展のための教育を推進するための活動のひとつです。

活動対象地域を、愛知・岐阜・三重の3県をほぼカバーする伊勢・三河湾流域圏(伊勢湾と三河湾に流れ込む河川の集水域)とし、地域の様々な課題解決のための「学び」のネットワークを広げることが目的としています。伊勢・三河湾流域圏の主要11河川(+1用水)の上流・中流・下流の計33(+3)地点において、地域の課題に取り組む団体と連携して、3年間で100を超えるESD講座を開催しました。

テーマは、地域に根差した環境・社会・経済の諸課題とし、伊勢・三河湾流域圏における多様な課題を共有し、その解決のために知恵を出し合いました。



縦系と横系で持続可能な地域を織ろう!



「流域圏ESD講座」の進め方

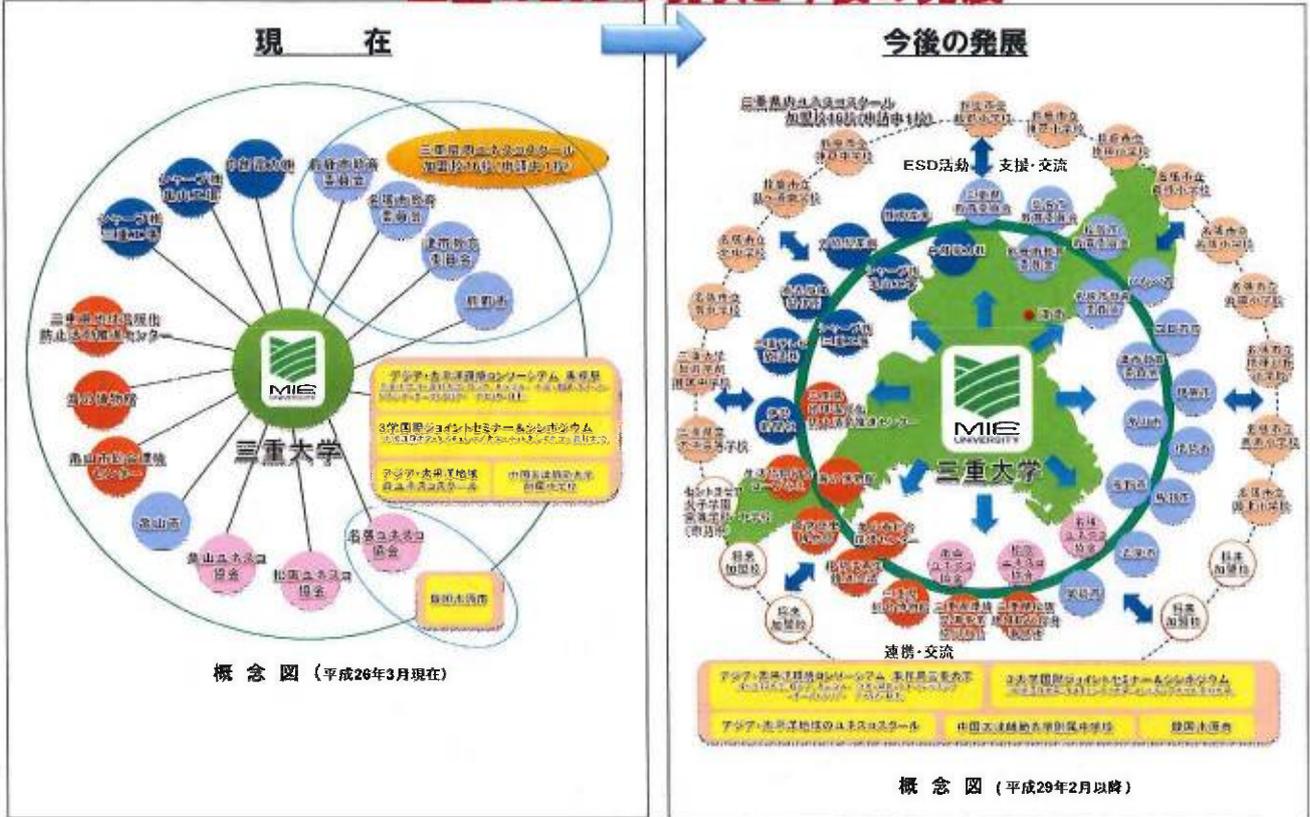
- 1) 地域の調査: 活動初期は、各河川の上・中・下流からそれぞれモデルとなる課題に取り組む教育機関やNPO・市民活動団体などのステークホルダーを選出するため、各河川において調査・情報収集を行う。
 - 2) ESD講座の実施: 上記の調査を経て、各流域において、地域に根差した課題(あるいは他地域との関わりの中で生じる課題)に取り組む諸団体(学校や市民団体、企業など)と連携してESD講座を開催する。
 - 3) 伊勢・三河湾流域圏の課題共有: 事業終期には、伊勢・三河湾流域圏の上・中・下流計33か所(+3)におけるESD講座の成果を持ち寄り、縦系としての上下流交流と、横系としての流域間交流を目的としたフォーラムを実施する。
- 2012年から2014年度までの3年計画で、合計約100の地域課題やその解決のために活動を行う主体の情報を収集し、共有、協働による持続可能な流域圏づくりをめざしてきました。



平成26年度 ユネスコ活動費補助金 グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業
(2014 - 2016年)

「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」

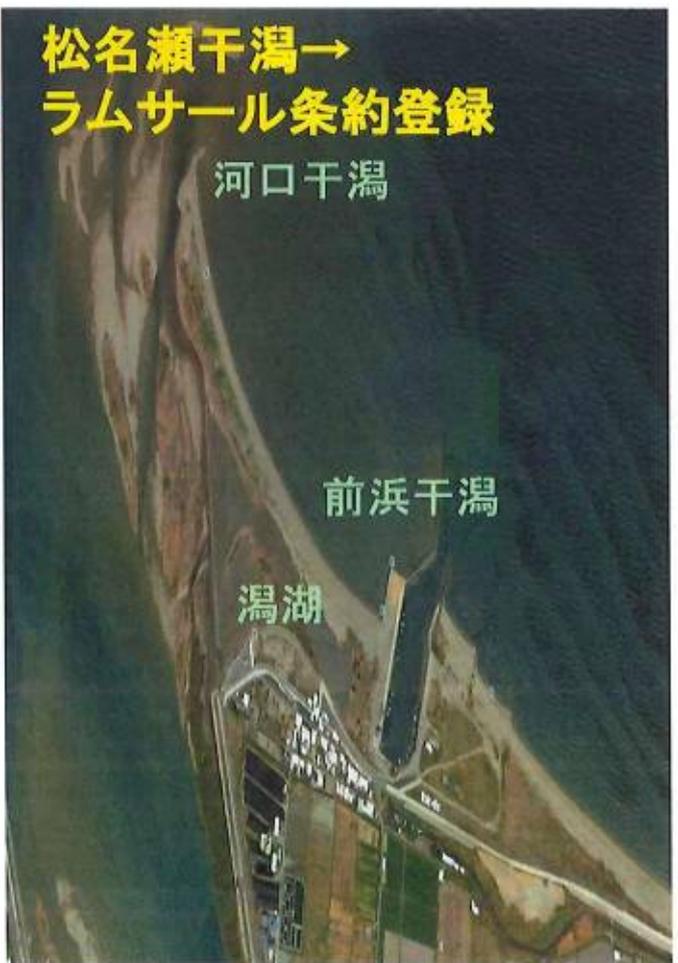
三重のESDの現状と今後の発展



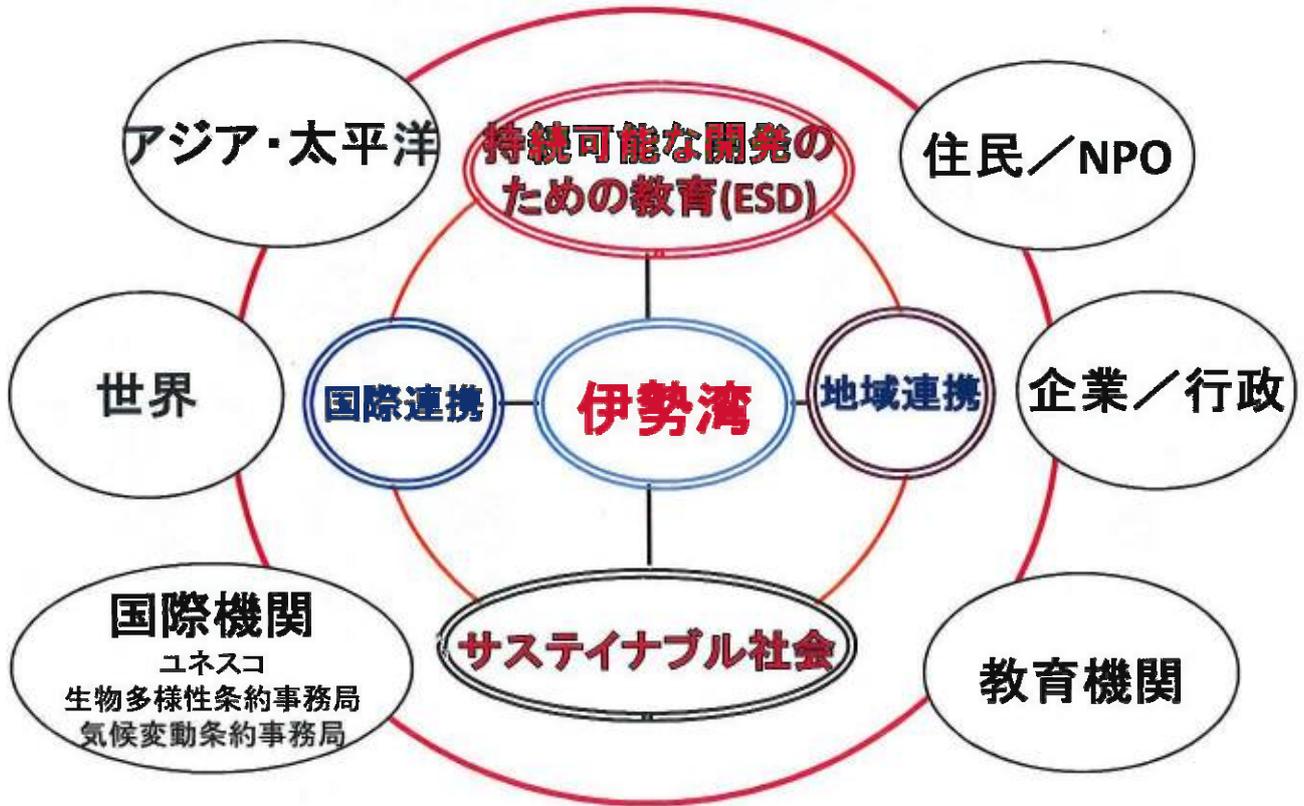
海女文化→
ユネスコ世界文化遺産登録



松名瀬干潟→
ラムサール条約登録



伊勢湾環境曼荼羅(森・里・川・海の連携)



伊勢湾再生戦略

